

## 論文審査の結果の要旨

|      |                                  |       |    |                      |
|------|----------------------------------|-------|----|----------------------|
| 報告番号 | 甲口<br>甲口保<br>乙口<br>乙口保<br>口修     | 第441号 | 氏名 | Gantumur Chimeddulam |
| 審査委員 | 主査 河野 文昭<br>副査 湯本 浩通<br>副査 宮本 洋二 |       |    |                      |

## 題目

Radiographic investigation of the marginal bone loss on dental implants: a retrospective cohort study (歯科インプラント周囲の骨吸収に関する臨床疫学研究)

## 要旨

歯科インプラント周囲の骨吸収は、インプラント周囲炎において主に認められ、進行するとインプラントの長期的な予後を損なう。本研究はインプラント周囲に発生する骨吸収の状態を評価し、関連要因を調査することを目的とした後ろ向きコホート研究である。

調査対象は徳島大学病院において歯科インプラントによる欠損補綴治療を行った症例の2003～2017年の診療記録である。骨吸収量の評価は、エックス線画像から、インプラント体のスクリュー部分の上縁と骨縁上の段差を計測した。この評価は、インプラント体の近心側と遠心側でそれぞれ行い、その平均値を代表値とした。測定した骨吸収量の記録はインプラント体の形状やアバットメントとの接合様式の異なる Brånemark と Replace Select の二群に分けて比較した。

Brånemark 群の骨吸収量の平均は  $0.7 \pm 1.32$  mm であり、Replace Select 群は  $0.65 \pm 1.51$  mm であった。Brånemark 群の骨吸収量はインプラントの機能期間と有意な正の相関を認めたが、Replace Select 群では有意な相関を認めなかった (スピアマン順位相関係数)。また、Brånemark 群では骨吸収量とインプラント体の直径との間に有意な負の相関を認めたが、Replace Select 群では有意な相関を認めなかった。

今回評価を行った二種類のインプラントシステム周囲の骨吸収量には、この他にも男性対女性、上顎対下顎、前歯部対臼歯部、インプラント長との関係で異なる特徴が認められた。これにはインプラントシステムの形態学的特性が関与していると考えられた。

本研究の結果から、インプラント体のデザインとアバットメント結合様式はインプラント体周囲の骨吸収量に関与していることが推察され、インプラントの長期的な予後に関与する要因である可能性が示唆された。以上より、本研究は歯科医学の発展に寄与するものと期待でき、本論文は博士 (歯学) の学位授与に値すると判定した。